

4月2日 聖木曜日

僕と主

ヨハネによる福音書 13 章 1～15 節

¹さて、過越祭の前のことである。イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。²夕食のときであった。既に悪魔は、イスカリオテのシモンの子ユダに、イエスを裏切る考えを抱かせていた。³イエスは、父がすべてを御自分の手にゆだねられたこと、また、御自分が神のもとから来て、神のもとに帰ろうとしていることを悟り、⁴食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。⁵それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬぐいでふき始められた。⁶シモン・ペトロのところに来ると、ペトロは、「主よ、あなたがわたしの足を洗ってくださるのですか」と言った。⁷イエスは答えて、「わたしのしていることは、今あなたには分かるまいが、後で、分かるようになる」と言われた。⁸ペトロが、「わたしの足など、決して洗わないでください」と言うと、イエスは、「もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」と答えられた。⁹そこでシモン・ペトロが言った。「主よ、足だけでなく、手も頭も。」¹⁰イエスは言われた。「既に体を洗った者は、全身清いだから、足だけ洗えばよい。あなたがたは清いのだが、皆が清いわけではない。」¹¹イエスは、御自分を裏切ろうとしている者がだれであるかを知っておられた。それで、「皆が清いわけではない」と言われたのである。

¹²さて、イエスは、弟子たちの足を洗ってしまうと、上着を着て、再び席に着いて言われた。「わたしがあなたがたにしたことが分かるか。¹³あなたがたは、わたしを『先生』とか『主』とか呼ぶ。そのように言うのは正しい。わたしはそうである。¹⁴ところで、主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。¹⁵わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。

他の朗読：出エジプト 12:1～8, 11～14 詩編 116:12, 13, 15～18 Ⅰコリント 11:23～26

Lectio …読む

福音記者ヨハネは、最初の「感謝の祭儀」に私たちを招きます。ヨハネによって、私たちは他の3つの福音書には見ることでできない詳細な物語を見ることが出来るのです。

ヨハネは、イエスがゲツセマネの園で試練に遭う前に、弟子たちと親密な夕食の時を過ごした様子を伝えています。

イエスは弟子たちにご自分の心を明かします。ヨハネだけが、彼らが過ごしたプライベートな時間に焦点を当てています。イエスがどのように弟子にして親しい友人である人たちの足を洗ったかを説明します。

イエスの考えを理解するために、私たちはふたつの点に留意する必要があります。誰かの足を洗うということは、主人から客に対する特別なもてなしでした。それは通常、家の主人ではなく、家に仕えているもの、もしくは奴隷が行う行為であったので、ご自分でそれを行ったイエスの行動は衝撃的でした。このことをふまれば、はじめそれを拒否したというペトロの反応が理解できます。ペトロはイエスが謙遜に仕える者となっていることを、受け入れることができませんでした。しかしイエスは、足を洗わせるようペトロに求めます。

イエスは弟子たちに大切なことを教える必要がありました。それはイエスが彼らに仕えたように、彼らが互いに仕え合う、ということです。

Meditatio …黙想する

弟子たちの足を洗うというこの行為には、どのような意味が隠されているのでしょうか。イエスのこの教えは、今でも価値があると思いますか。

この「足を洗う」奉仕を、今日私たちはどのような方法で周りの人へ実践することができるか、考えてみましょう。ペトロと同じように私たちもまた、私たちになされる奉仕をどのように受け入れるべきかを学ばなければなりません。

Oratio …祈る

神は私たちを、友人や隣人たちの共同体の中に置いてくださっています。あなたが仕え、親切に接しなければならぬ人がいないか、神の照らしを願ひましょう。それはあなたが知らない人であるかもしれませんし、もう二度と会わない人かもしれません。主の声に耳を傾けてください。そして聖霊に導きを願ってください。あなたのために「神が前もって準備してくださった善い業（エフェソ 2 章 10 節）」をする機会を明らかにしてくださるように、神に願ひましょう。

Contemplatio …観想する

過ぎ越しの食事の起源を理解するため、今日の朗読には出エジプト 12 章が含まれています。この箇所は、奴隷の生活から解放されて約束の地へと出発した、イスラエルの民のエジプトでの最後の夜へ、私たちをゆっくりと誘います。

過ぎ越しの食事の中でイエスは、私たちが現在「感謝の祭儀」と呼ぶものを制定しました。1 コリント 11 章 23～26 節で、パウロは他の 3 つの福音書に記されているのと同じ出来事を描きます。パウロは、その時代の教会で行われていた典礼の式文を繰り返していたようです。